

令和 7 年度 京都市美術館協議会 議案書

P1	京都市美術館（京都市京セラ美術館）概要
P7	令和6年度事業報告
P39	令和7年度事業計画

令和 7 年 1 0 月 8 日

京都市美術館
(京都市京セラ美術館)
概 要

施設概要

■敷地面積（本館・新館・別館）
28,515.71㎡

名称	面積(㎡)
北回廊 1階 展示室	840.72
北回廊 2階 展示室	983.19
南回廊 1階 展示室	878.14
南回廊 2階 展示室	1,000.05
東山キューブ展示室	950.27
ザ・トライアングル	89.61

■延床面積（本館・新館・別館）
20,704.46㎡

名称	面積(㎡)
別館 第1展示室	416.78
別館 第2展示室	499.85
光の広間（北中庭）	445.89
天の中庭（南中庭）	445.89
収蔵諸室	1,555.21
講演室	179.49

名称	面積(㎡)
中央ホール	588.79
カフェ	251.21
ショップ	137.83
京セラスクエア	2,964.37
東山キューブテラス	616.91
日本庭園	3,411.79

■開館時間

10時～18時（展示室への入場は17時30分まで）

■休館日

月曜日（祝日の場合は開館）／年末年始（12月28日～1月2日）

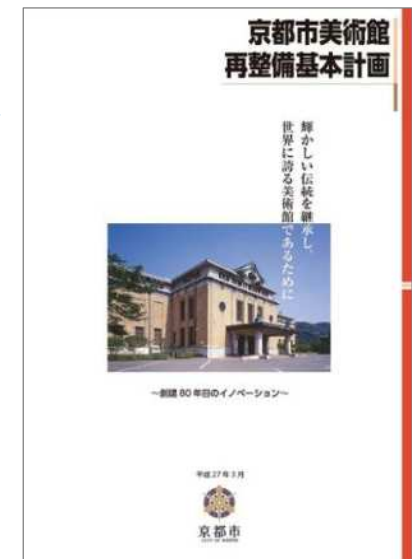
■観覧料：コレクションルーム（常設展）

一般	京都市内在住の方	520円
	市外在住の方	730円
	団体（20名以上）	620円
小中高生等	京都市内在住又は通学の方	無料
	市外在住の方	300円
	団体（20名以上）	200円
小学生未満		無料



「京都市美術館再整備基本計画」（平成27年3月策定）

- ・ 貴重な文化的財産を保存継承し、多様な美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、次世代の若手作家や市民の創造的活動を支援する**複合型美術館**を目指す。
- ・ 芸術系大学や学校の美術教育との連携、市民協働の推進により、すべての人に開かれた生涯学習の場となる**社会教育施設**を目指す。
- ・ 岡崎地域のポテンシャルを生かし、文化・観光振興のための多彩なプロモーションを可能とする**国際文化観光都市・京都の発信拠点**を目指す。



令和7年9月末現在

<市職員（事務職員・学芸員）>

25人：部長1、課長2（1）、係長4（1）、係員6（2）、会計年度任用職員12（8）

※（ ）内は学芸員の数

<学芸の体制強化>

■目的

現代アートの知見蓄積による学芸員の企画力の強化
効率的・効果的な美術館の運営

■学芸員の増員

令和7年度から学芸員を増員し、これまで民間委託していた現代アートの企画・運営等を直営で実施

	令和6年9月	令和7年9月
学芸員の人数	6人	12人

<再整備基本計画：将来的な運営の在り方の検討>

- ・美術館活動の基盤をなす学芸部門は直営体制を基本とし、広報や資金調達など、民間の人材、ノウハウが活かせる部門については民間活力の導入も視野に、京都市として責任ある体制を堅持しつつ、さらに魅力を高める運営の在り方を検討する。

運営体制等

＜主な外部委託の状況＞

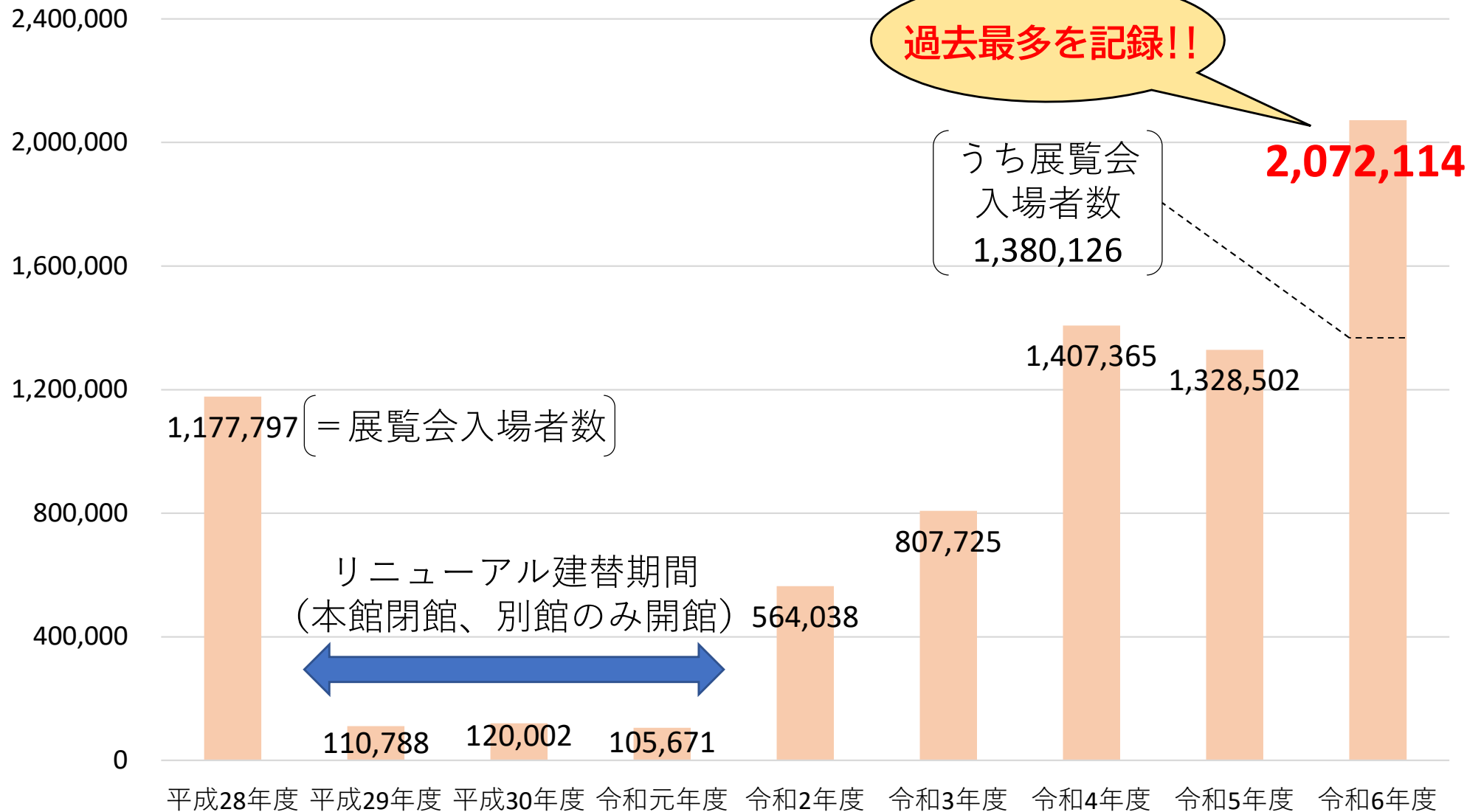
令和7年9月末現在

業務名	業務内容	委託先
事業推進業務	広報PR、スペースレンタル営業などの支援、運営支援業務	(株) 長谷ビル
運営サービス業務	来館者及び利用者への総合サービス、総合案内、チケットカウンター、改札、看視、代表電話業務等	サントリーパブリシティサービス (株)
施設マネジメント業務	展示・イベント・施設利用に係る管理及び運営支援業務	(株) ブランコ
警備業務	本館及び別館の警備業務 (24時間常駐)	セコム (株)
清掃業務	本館及び別館の清掃業務	日本管財 (株)
建築設備保守管理業務	本館及び別館の建築設備保守管理業務	日本管財 (株)
日本庭園維持管理業務	日本庭園等の維持管理業務	(株) 川勝造園

令和6年度事業報告

入館者数の推移（平成28年度～令和6年度）

入館者数の推移（人）



コレクションルーム（常設展）

令和6年度は、大規模な主催展及び共催展が多く企画されたことから、夏・冬の2回開催し、季節に合わせた作品を多数展示した。

展覧会名	会期	日数	会場	入場者数実績（人） （1日あたり）
夏期 特集「女性が描く女性たち」	R6.7.19～R6.9.27	64	南回廊1F	20,366 (318人/日)
冬期 特集「世界が見惚れた京都のやきもの ～明治の神業」	R7.1.10～R7.2.24	41	南回廊1F	10,089 (246人/日)
合 計				30,455

コレクションルーム（常設展） — 展示構成

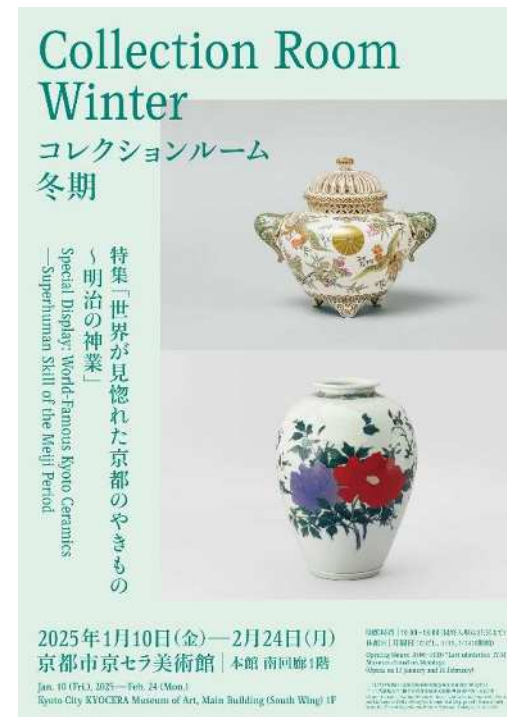
夏 期 特集：女性が描く女性たち



- 106 特集：女性が描く女性たち—先駆者の試み
- 110 特集：女性が描く女性たち—着飾らない姿
- 109 特集：女性が描く女性たち—よそゆきの姿
- 南広間 青磁と染付
- 108 青々とした緑
- 107 シルクスクリーンの可能性
- 106 大量消費がもたらす儚さ

（＊数字は部屋番号）

冬 期 特集：世界が見惚れた京都のやきもの
～明治の神業



- 106、110、109 特集：世界が見惚れた京都のやきもの～明治の神業
- 南広間 茶の器、酒の器
- 108 装いの趣
- 107 不動茂弥—日本画の革新
- 106 描かれた仏の世界

（＊数字は部屋番号）

主催展一覧

近現代日本画、現代美術、工芸など多様な作品の鑑賞機会を提供。

展覧会名	主催	会期	日数	会場	入場者数実数(人) (1日あたり)
京都市美術館開館 90周年記念展 村上隆 もののけ 京都	京都市、朝日新聞社、京都新聞、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿	R6.2.3～R6.9.1	187	新館東山 キューブ	459,559 (2,458人/日) ※R5:133,517 R6:326,042
金曜ロードショーと ジブリ展	京都市、読売テレビ	R6.4.12～R6.6.29	70	北回廊2F	212,790 (3,040人/日)
京都市立芸術大学 移転記念 特別展 巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこう して生まれた	京都市、毎日新聞社、京都新聞	R6.10.11～R6.12.22	65	南回廊1F	24,961 (384人/日)
第11回日展京都展	京都市、京都新聞	R6.12.21～R7.1.18	21	北回廊1F2F、 南回廊2F、 光の広間	23,905 (1,138人/日)
合 計					721,215 ※R5:133,517 R6:587,698

村上隆 もののけ 京都

現代美術の最前線で活躍する村上隆の大規模な個展。

村上が活動初期から深い関心を寄せてきた江戸時代の絵師たちが活躍し、今なお、あらゆる芸能と芸術が息づき交わり合うここ京都を舞台に、新たに描きおろした超大作をはじめ、代表的なシリーズ、国内初公開となる作品などを展示。



Photo: Joshua White
©2024 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

金曜ロードショーとジブリ展

昭和・平成・令和と「映画」と私たちをつないできた「金曜ロードショー」が始まった1985（昭和60）年は、スタジオジブリがスタジオ開きをした年でもあった。

本展では、その1985年を起点に「金曜ロードショー」の歩みを辿りながら、スタジオジブリ作品の魅力を紹介。



巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた

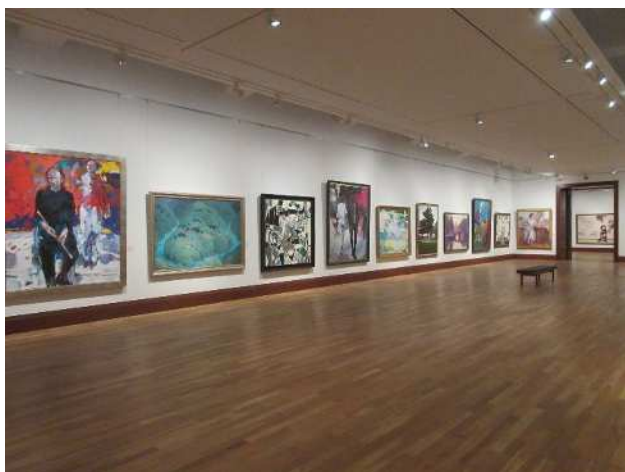
京都市立芸術大学移転記念として、大学の前身である京都府画学校や美術工芸学校、絵画専門学校で研鑽を積んだ47人の画家を一堂に紹介。

学生時代に悩みながら制作した卒業制作や画壇デビュー時の作品など、画家の初期作と、評価を高めた充実期の代表作が並んだ。



第11回日展京都展

明治40年に開設された文部省美術展覧会を前身とする全国規模の公募展の京都巡回展。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の5部門にわたって、全国巡回の基本作品と、京都・滋賀の地元作品の約450点を展示。



ザ・トライアングル

北西の角の地下1階に、京都ゆかりの作家を中心に新進作家を育み、当館を訪れる方々が気軽に現代美術に触れる場を提供。

■「川田知志：築土構木」

(令和6年7月16日(火)～令和6年10月6日(日))

■「MIKADO2：ワニのためのフーガ」

(令和6年10月19日(土)～令和6年12月22日(日))

■「坂本森海：火と土と食べたいもの」

(令和7年1月11日(土)～令和7年3月16日(日))

■「迎英里子：approach 3.1」

(令和7年3月29日(土)～令和7年6月1日(日))

「川田知志：築土構木」



撮影：来田猛

「MIKADO2：ワニのためのフーガ」



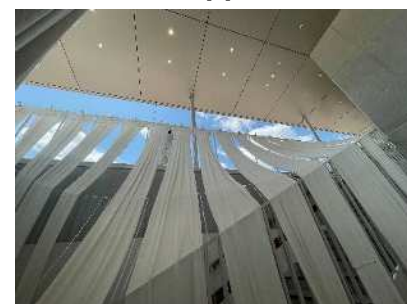
撮影：来田猛

「坂本森海：火と土と食べたいもの」



撮影：守屋友樹

「迎英里子：approach 3.1」



共催展

魅力的な海外展をはじめ、多彩なジャンルの展覧会を開催。

展覧会名	主催	会期	日数	会場	入場者数実績（人） （1日あたり）
パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展ー美の革命 ピカソ、ブラックからドロー ナー、シャガールへ	ポンピドゥーセン ター、日本経済新聞 社、テレビ大阪、京 都新聞、京都市	R6.3.20～R6.7.7	97	北回廊1F、 南回廊1F	67,942 (700人/日) ※R5: 7,624 R6:60,318
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真 祭 2024	一般社団法人 KYOTOGRAPHIE	R6.4.13～R6.5.12	28	南回廊2F	24,688 (882人/日)
没後50年 生誕120年 奥村厚一 光の風景画家 展	ライブエグザム、BS フジ、BS11、京都新 聞、京都市	R6.7.19～R6.9.8	46	北回廊1F	13,659 (297人/日)
グッチ日本上陸60周年記念展 GUCCI COSMOS	グッチ、京都市	R6.10.1～R6.12.1	56	北回廊1F、 新館東山 キューブ	79,931 (1,427人/日)
特別展 蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影	蜷川実花展 with EiM： 彼岸の光、此岸の影 実行委員会	R7.1.11～R7.3.30	70	新館東山 キューブ	252,048 (3,601人/日)
モネ 睡蓮のとき	マルモッタン・モネ美術 館、読売テレビ、読売新 聞社、キョードーエンタ テインメント、京都市	R7.3.7～R7.6.8	83	北回廊1F、 南回廊1F	355,755 (4,286人/日) ※R6: 87,646 R7:268,109
合 計					794,023 ※R5: 7,624 R6:518,290 R7:268,109

多様なジャンルの美術団体等に発表の場を提供することにより、次世代の若手作家や、市民の創作活動を支援。

年度	貸館件数	入場者数（人）	使用料収入（千円）
令和2年度	68	103,019	19,318
令和3年度	115	173,450	37,513
令和4年度	127	209,106	39,747
令和5年度	135	236,922	41,025
令和6年度	148	243,683	43,701

※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症に伴うキャンセルが相次いだ。

京都市美術館美術品収集方針

(平成30年11月14日決定)

日本文化の創造と継承の中心地である京都における近代以降の美術※1を展望できる総合的なコレクション※2を、世界的な視野に立って形成するために必要な作家の作品及び資料を計画的に継続して収集する。

1. 近代以降の美術において重要な位置を占める作家の作品及び資料を収集する。
2. 現代の美術において新たな展開を見せる作家の作品及び資料を収集する。
3. 近代以降の美術に有意義な関連のある国内及び海外の作家の作品及び資料を収集する。
4. 主要な作家については、作風の変遷を見ることができるよう、各時期の作品を収集する。
5. 上記の作品及び資料について、長期的な計画に従って毎年継続して収集する。

※1 明治以降から現在までの美術を意味するが、近代の美術の形成に影響を与えた江戸期の美術まで遡及するものとする。

※2 既存の部門（日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書）だけでなく、新たな分野（写真、映像など）の作品も対象とする。

美術品の収集

■令和6年度収集点数：購入 5点
寄贈 94点

■購入作品：購入金額合計 15,230千円

- ・菊池契月《茄子》
- ・野村仁《tRNA + チトクロームC又は双胴の鳥》
- ・高橋清山《染付竹林鉄線草華瓶》
- ・戸寫光孚《枇杷紋香炉盆》
- ・堂本漆軒《果蟲文香炉盆》



菊池契月《茄子》

■主な寄贈作品

土田麦僊《スケッチ帖》

太田喜二郎《薫風》

小合友之助《臥竜松》他

宮永理吉（三代宮永東山）《土の詩》他

吉岡千尋《muqarnas》



野村仁《tRNA +
チトクロームC
又は双胴の鳥》



高橋清山《染付竹林
鉄線草華瓶》



小合友之助《臥竜松》

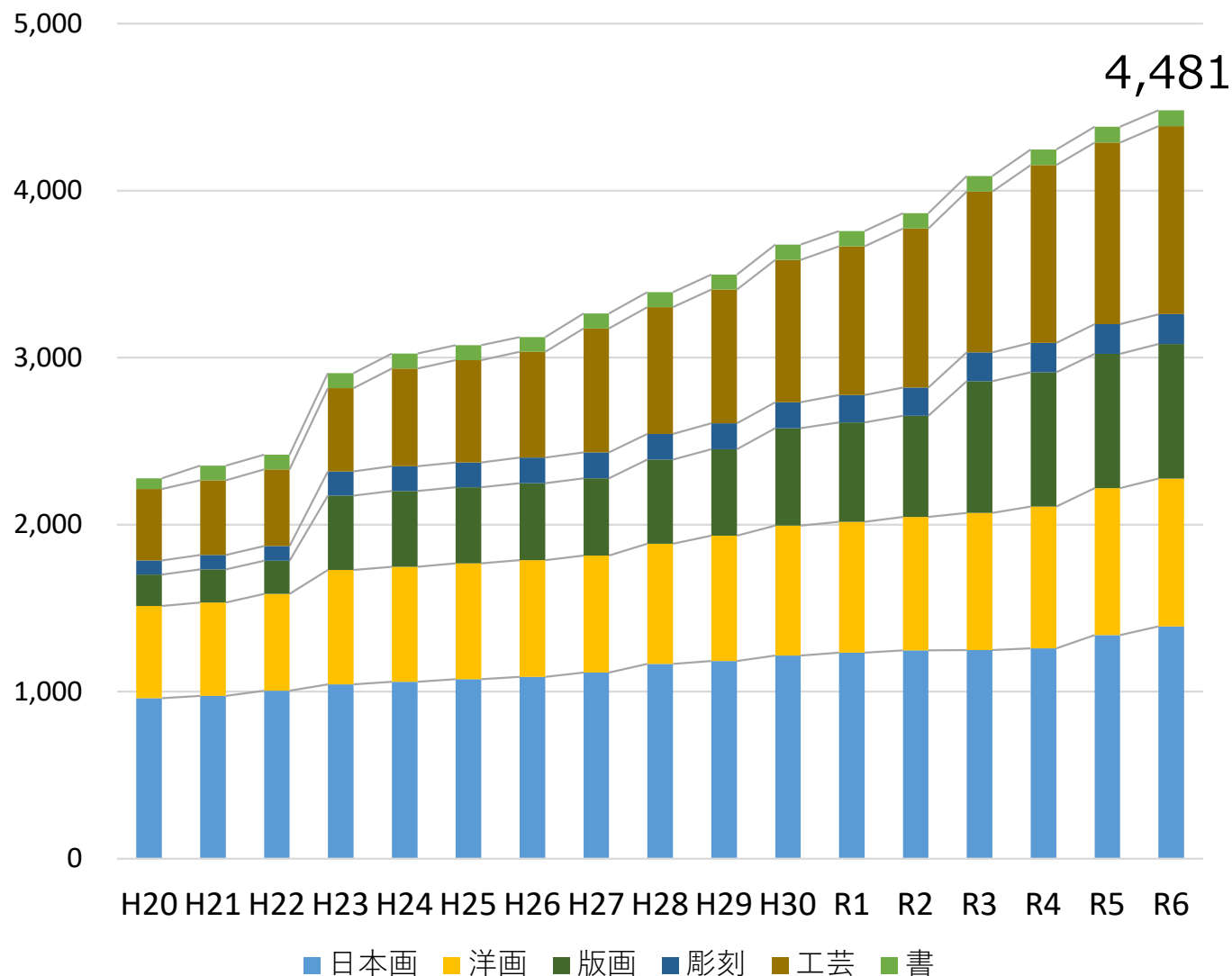
美術品の収集

■ 令和6年度 取得内訳
※ () 内は収蔵品数

日本画	52点 (計 1,391点)
洋画	5点 (計 884点)
版画	1点 (計 806点)
彫刻	2点 (計 179点)
工芸	38点 (計 1,126点)
書	1点 (計 95点)
合計	99点 (計 4,481点)

※令和7年4月1日現在

収蔵品数の推移



■ 作品貸出 令和6年度：24件 78点

(主な貸出先)

- ・ 松伯美術館他：
「上村松園 松篁 淳之 文化勲章受章—日本画三代美の系譜」
—上村松園《人生の花》他 計8点
- ・ 大阪中之島美術館、埼玉県立近代美術館他：
「没後30年 木下佳通代」
—木下佳通代《む-59 Untitled（腕時計）》他 計10点
- ・ 小松市立宮本三郎美術館：
「宮本三郎没後50年
特別展 宮本三郎と関西美術院-京都洋画の過渡期-」
—浅井忠《聖護院の庭》他 計10点

■ デジタルアーカイブ

デジタル化したデータは、雑誌、書籍への掲載や作品貸出の際の活用に加え、美術館ウェブサイトの「当館のコレクション」で公開

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
日本画	1291	1305	1372
洋 画	837	864	895
版 画	578	616	619
彫 刻	158	165	165
工 芸	804	902	933
書	81	82	82
合 計	3,749	3,934	4,066

デジタル化作品数の推移（点）

■美術館ニュースの発行（年2回）

223号：

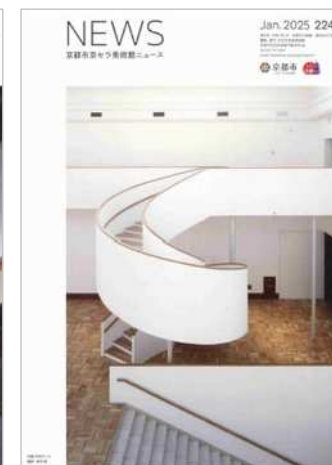
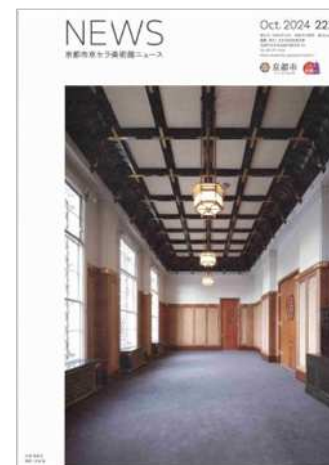
- ・森光彦「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた 展覧会のご案内」
- ・野崎昌弘「蜷川実花展 with EiM 開催に向けて」
- ・新装版「作家にきく」no. 8

山本之夫（聞き手：京都市美術館学芸課） 等

224号：

- ・岡本隆志「三代清風與平と明治の京焼」
- ・坂本森海「陶芸を使う」
- ・新装版「作家にきく」no. 9

畠中光享（聞き手：京都市美術館学芸課ほか） 等



■研究紀要（年1回発行）

第4号

○論文

- ・中山摩衣子「1951年から1970年頃の京都市立美術大学彫刻科について」

○作品紹介

- ・森光彦「菊池契月《茄子》について」

○資料紹介

- ・中谷至宏「京都アンデパンダン展資料」

○新装版「作家にきく」vol.2（後半）中井貞次

（聞き手・編集：ひろいのぶこ、後藤結美子、中山摩衣子）



■ 図録執筆

『京都市立芸術大学移転記念 特別展

巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた』

- ・ 論文

森光彦「画家と近代教育施設 京都府画学校について」

福田里和「福田平八郎の初期画風形成―美工・絵専時代の作品から読み解く―」

陳鶯「非常時の共同制作―1943年における京都市立絵画専門学校の
大画標制作をめぐる―」

- ・ コラム、章解説、作品解説執筆：森光彦、福田里和、陳鶯



『没後50年 生誕120年 奥村厚一 光の風景画家 展』

- ・ 論文

後藤結美子「奥村厚一 光の風景画家」

- ・ コラム、章解説、作品解説執筆：後藤結美子、一柳由樹、影山侑恵、中島基江

『モネ 睡蓮のとき』

- ・ 執筆 中山摩衣子

『蜷川実花展 with EiM : 彼岸の光、此岸の影』

- ・ 執筆 高橋信也「蜷川実花の『彼岸』と『此岸』、そして京都。」

■ CONNECTでの取組

本館 2 階談話室にて、対話型美術鑑賞「まなざしを分かち合う」の映像展示を行った。



■ ぽよよんタイム、ぽよよんDAYの実施

ぽよよんタイムでは、ラーニング担当スタッフが談話室に在室して来館者と交流し、展覧会の感想を話し合ったり、美術館の楽しみ方について一緒に考えたりした。

ぽよよんDAYでは、ラーニングツールを活用して、作品が持つ魅力を発見して表現する楽しみを体験する「ラーニングツール体験会×夏の美術館で自由研究」や、自身で制作した作品を持ち寄り展示室で一から展覧会作りを行う「京都市京セラ美術館で展覧会を作ってみよう！」を開催し、美術館で学び合える機会を創出した。

（計 1 1 回。延べ 7 0 0 名が参加）

■ 京都芸術教育コンソーシアム（Art-e Kyoto）への参画

教育普及（ラーニング）

ギャラリートーク、アーティストトーク、講演会等の令和6年度実績：90件
(約3,700名参加)

■ギャラリートークの主な実施状況

展覧会名	回数	延べ参加者数(人)
村上隆 もののけ 京都	10	85
巨匠たちの学び舎	2	37
第11回日展京都展	22	910
蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影	3	26
コレクションルーム	4	92

その他、メンバーシップ会員向けにギャラリートークを開催



■アーティストトークの主な実施状況

展覧会名	回数	延べ参加者数(人)
ザ・トライアングル 嶋春香「仮縫いと野良仕事」	2	27
ザ・トライアングル 川田知志「築土構木」	2	22
ザ・トライアングル MIKADO2「ワニのためのフーガ」	1	31
蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影	1	77
ザ・トライアングル 坂本森海「火と土と食べたいもの」	1	37
ザ・トライアングル 迎英里子「approach 3.1」	1	25

教育普及（ラーニング）

■講演会等の主な実施状況

展覧会名等	内容等	回数	延べ参加者数（人）
村上隆 もののけ 京都	講演会「村上隆作品を通して学ぼう！『京都』と『もののけ』」、「村上隆 もののけ 京都」をめぐって—カタログ寄稿者3人が語る—、「村上隆—21世紀の奇想の系譜」他	5	325
キュビズム展	国際シンポジウム「キュビズム、美の革命—その生成と拡張」	1	282 (うちオンライン参加217)
巨匠たちの学び舎	講演会「画家たちの青春—若気の至りは美術の宝」、「卒業制作よもやまばなし」、「日本画家たちにとっての学び舎」、「日本画の「学び方」はどう語られてきたか」	4	177
第11回日展京都展	視覚障害者のための「手で触れる日展」、親子鑑賞会	2	42
ザ・トライアングル 坂本森海	ナガカレー料理教室Ⅲ	1	13
コレクションルーム冬期	講演会「明治の京焼コレクターに聞く：美術品の見極め方」	1	52
モネ 睡蓮のとき	講演会「マルモッタン・モネ美術館の歴史—コレクターたちの美術館」、ジュニアツアー「はじめてのモネ”じっくりみてみよう”」	3	140
ぽよよんDAY	「ラーニングツール体験会×夏の美術館で自由研究」、「京都市京セラ美術館で展覧会を作ってみよう！」	3	540
ぽよよんタイム	談話室でラーニング担当スタッフと展覧会の感想等を話し合うもの	8	160

■Instagram、Facebook、YouTube

年間通じてほぼ毎日、InstagramやFacebookに展覧会やイベント等に関する記事を掲載。

	R3	R4	R5	R6
Instagram（フォロワー数）	30,578	42,451	58,607	74,192
Facebook（フォロワー数）	13,213	16,656	17,489	19,109
YouTube（登録者数）	1,600	1,917	2,479	2,859



■クリッピング数（令和6年度）

掲載件数（日本語）

全体	新聞	Web	雑誌	TV・ラジオ
8,156件	1,130件	6,746件	202件	78件

掲載件数（多言語）

全体	新聞	Web	雑誌	TV・ラジオ
13件	5件	1件	6件	1件

* 共催展関連は当館で確認できたものののみ集計。
多言語は掲載連絡があったものののみ集計。

■ 公式YouTubeチャンネル

展覧会やラーニング等に関する動画コンテンツを作成し、公式YouTubeチャンネルで公開。令和6年度はザ・トライアングルのアーティストへのインタビューや、展覧会の解説動画などを公開した。



動画名

ザ・トライアングル「嶋春香：仮縫いと野良仕事」 The Triangle "Shima Haruka: Basting and Fieldwork"

京都市京セラ美術館ラーニング・プログラム 対話型鑑賞「まなざしを分かち合うNo.2」

ザ・トライアングル「川田知志：築土構木」（インタビュー）

ザ・トライアングル「川田知志：築土構木」（展示設営、壁画移設作業準備、壁画移設作業公開、撤収作業）計4本

京都市立芸術大学移転記念特別展「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」
関連インタビュー：景聴園と日本画のことをしゃべってみよう〈第1回～第4回〉 計4本

〔解説動画〕2024年度コレクションルーム冬期 特集「世界が見惚れた京都のやきもの～明治の神業」

来館者サービス（多言語対応、オンラインチケット販売）

■コレクションルーム音声ガイドの多言語化

コレクションルームで展示している作品を紹介する音声ガイドを、4か国語（日・英・中・韓）で作成している。（累計200作品）

■オンラインチケット販売

主催・共催展覧会のオンラインチケット販売を実施

※ 入場者多数の展覧会は日時指定チケットにより混雑緩和

※ チケット販売のほか、事前に観覧券をお持ちの方による
観覧日時予約も実施

※ チケット購入画面



カフェ

エンフューズ ENFUSE

営業時間：10時30分～19時（定休日：休館日に準ずる）

利用者数：91,010人（令和6年度）

<主な取組>

■ 展覧会にあわせた期間限定メニューの提供（以下は一例）



村上隆展 コラボ
和菓子



キュビズム展 コラボ
キュビズムケーキ



金曜ロードショーとジブリ展 コラボ
金魚鉢ソーダ

■ 岡崎フォトピクニックの開催

カメラを持って岡崎を散策するフォトウォークとピクニックを組み合わせたイベント「岡崎フォトピクニック」。若者を中心に約10名が参加し、撮影写真や岡崎の魅力をSNSで発信。



アート レクタンブル キョウト ART RECTANGLE KYOTO

営業時間：10時30分～18時30分（定休日：休館日に準ずる）
利用者数：72,129人（令和6年度）

<主な取組>

- 展覧会にあわせた関連商品の販売（以下は一例）



- 京都市京セラ美術館オリジナルグッズの販売

<グッズの一例>

トートバッグ、マグネット、マグカップ、
ブックマーカー、ポストカード etc.



金曜ロードショーとジブリ展、蛭川実花展 etc.

他館との連携・協力

■ 京都ミュージアムズ・フォー

参加館：京都国立博物館、京都国立近代美術館、
京都文化博物館、京都市京セラ美術館

4館スケジュールパンフレットの作成や連携講座、スタンプラリー、
4館友の会相互割引の実施



■ 3館相互割引

参加館：京都国立近代美術館、細見美術館、
京都市京セラ美術館

観覧者や友の会会員に対する相互割引の実施

■ 京都伝統産業ミュージアムとの相互割引

入場券の提示でコレクションルーム100円割引適用

■ 京博連（京都市博物館施設連絡協議会）

第28回京都ミュージアムロードへの参加



メンバーシップ

〈個人会員〉

区 分	令和5年度	令和6年度
サポーターフェロー(20,000円)	62	70
フレンド (6,300円/年)	1,712	1,879
フレンドU25(3,600円/年)	93	80
e-フレンド(無料メルマガ会員)	2,865	3,188
合 計	4,732	5,217

〈法人会員〉

区 分	令和5年度	令和6年度
プラチナ (5,000,000円/年)	2	2
ゴールド (3,000,000円/年)	0	0
シルバー (1,000,000円/年)	6	5
ブロンズ (100,000円/口/年)	20	19
合 計	28	26

■ 展覧会優待

- ・ コレクションルーム無料入場（何度でも）
- ・ 企画展 1 回目無料入場（一部のみ）
- ・ 企画展チケット割引販売

■ Members Newsの発行（年4回）

■ 美術館支援事業

- ・ 所蔵作品設置支援
- ・ 作品購入費寄附

■ 実施イベント

- ・ 展覧会ギャラリートーク
- ・ コレクションルーム特別早朝観覧
- ・ バスツアー
- ・ 法人会員交流会

等



この作品は1階南回廊「天の中庭」で公開中です。

國府 理《屋根裏の庭》



MICE利用

令和4年度から利用可能となった中央ホールに加え、光の広間や東エントランスロビーをレセプション等のユニークベニューとして積極的に活用した。



■ 主なMICE利用実績

内容	期間（設営撤去期間含む）
シンクビー！展示受注会	R6.4.13~R6.4.14
祇園祭 橋弁慶山前懸お披露目	R6.5.22~R6.5.24
gala dinner	R6.5.25
nori enomoto pop up store	R6.8.9~R6.8.12
INAMORI ミュージック・デイ2024 ミニコンサート	R6.8.10
INTO THE BRIGHT KYOTO	R6.8.28
GUCCI COSMOSレセプション	R6.9.30
ミュージックビデオ撮影	R7.1.19~R7.1.21
tuottaa（ファッションショー）	R7.2.13
COFFEE HOLIC # 5	R7.2.14~R7.2.15

ナイトミュージアムKANSAI@京都市京セラ美術館

美術館・博物館相互の連携やネットワーク形成により、夜の時間帯における新たな価値創出や文化と経済の好循環の実現を図るため、8月の毎週金曜・土曜日（8/24(土)を除く）は20時まで夜間開館を実施。全9日間で7,200人以上が来館。

金曜日：仕事終わりにアートを嗜む



ビジネスパーソン向け
アート講座

全2回（8/2,30）で
計130人以上が参加



副館長と気軽に
展覧会の感想を
語り合う場を設置

全5回で
計110人以上が参加

土曜日：子どもも大人ものびのび楽しむ



作品の魅力を
発見し表現する
ワークショップ

全3回（8/10,17,31）で
計200人が参加

全日（金曜・土曜日）



光のアーティスト
高橋匡太氏による
特別なライトアップ

そのほか、声出しOKの展覧会鑑賞（土曜日）、ザ・トライアングル「川田知志」ガイドツアー（8/9）、INAMORIミュージック・デイ2024（8/10）、カフェ・ショップの営業時間の延長を実施。

※ 京都市京セラ美術館のほか、京都文化博物館、滋賀県立美術館でも実施（実施内容・時期は館ごとに異なる）

令和6年度決算概要

令和6年度決算は、予算と比較して、歳入が、展覧会収入等の増加により約2,800万円の増加となった一方、歳出は、運営経費の節減や執行抑制等により約1億1,600万円の減額となり、一般財源（市税等）の負担は予算比約1億4,400万円の減額の約1億1400万円となった。

（単位：百万円）

項目	令和6年度 予 算	令和6年度 決 算	差引 増減	令和6年度決算のうち主なもの
歳 入	923	951	+28	コレクション展14、美術館使用料482、展覧会配当収入等233、寄附金14 など
歳 出	1,181	1,065	△116	展覧会企画・施設運営等721、コレクション展31、展覧会負担金等267、館内維持修繕2 など
一般財源 (税負担額)	258	114	△144	

令和 7 年度事業計画

コレクションルーム（常設展）

<再整備基本計画：魅力的な展覧会の開催>

- ・「京都画壇」を多角的に紹介し、京都の美の系譜を重層的に理解できる常設展を開催。

展覧会名	会期	日数	会場	入場者数実績（人） （1日あたり）
春期 特集「染織をめぐる冒険—京都の作家を中心に」	R7.4.11～R7.6.15	59	北回廊2F	11,704 (198人/日)
夏期 特集「洋画の夜明け—黒田重太郎にならって」	R7.6.20～R7.8.31	65	南回廊1F	13,475 (207人/日)
秋期 特集「こどもへのまなざし」	R7.10.24～R7.12.14	47	北回廊1F	—
冬期 特集「お雛さまと人形の世界～絵画と共に四季をめぐる」	R7.12.19～R8.3.15	72	南回廊1F	—
合 計				—

<再整備基本計画：魅力的な展覧会の開催>

- ・「京都画壇」を多角的に紹介し、京都の美の系譜を重層的に理解できる常設展を開催
- ・世界が注目する多様な芸術表現を取り上げた現代美術等の企画展を開催。
- ・美術・工芸の系譜に連なる伝統産業産品に着目し、地場産業の振興、技術の普及継承につながる展覧会を開催。

展覧会名	主催	会期	日数	会場	入場者数実績(人) (1日あたり)
特別展 民藝誕生100年—京都が紡いだ 日常の美	京都市、NHK京都放送 局、NHKエンタープ ライズ近畿、毎日新聞社、 京都新聞	R7.9.13～R7.12.7	78	南回廊1F	—
第118回日展京都展	京都市、京都新聞	R7.12.20～R8.1.17	21	北回廊1F2F、 南回廊2F、 光の広間	—
特別展 日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948－1970	京都市、関西テレビ放送、 京都新聞	R8.2.7～R8.5.6	78	新館東山 キューブ	—
西洋絵画400年の旅—珠玉の東京 富士美術館コレクション	京都市、京都新聞、産経 新聞社、関西テレビ放送	R8.3.20～R8.5.24	58	北回廊1F	—
合 計					—

＜再整備基本計画：魅力的な展覧会の開催、次世代の育成＞

- ・ 世界が注目する多様な芸術表現を取り上げた現代美術等の企画展を開催。
- ・ 若手作家や市民の創作活動を支援。

■ 寺岡海「この空の下で」

（令和7年6月17日（火）～ 令和7年8月24日（日））

■ 薬師川千晴「ノックノック、境界の扉をノックする。」

（令和7年9月9日（火）～ 令和7年11月16日（日））

■ 佐俣和木「タイトル未定」

（令和7年12月3日（水）～ 令和8年2月15日（日））

■ 三橋卓「タイトル未定」

（令和8年3月10日（火）～ 令和8年5月17日（日））

寺岡海「この空の下で」



薬師川千晴
「ノックノック、境界の扉をノックする。」



佐俣和木



個展「You Dream About?」展示風景、2024年
撮影：加藤奈々子

三橋卓



《作品（歩いたり立ち止まったり）》2021年

＜再整備基本計画：魅力的な展覧会の開催＞

- ・ 魅力的な海外展の誘致、特色ある美術館とのパートナーシップによる多彩で国際的な文化芸術交流を推進。

展覧会名	主催	会期	日数	会場	入場者数実績（人） （1日あたり）
モネ 睡蓮のとき	マルモッタン・モネ美術館、読売テレビ、読売新聞社、キョードーエンタテインメント、京都市	R7.3.7～R7.6.8	83	北回廊1F、南回廊2F	355,755 (4,286人/日) ※R6: 87,646 R7:268,109
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2025	一般社団法人 KYOTOGRAPHIE	R7.4.12～R7.5.11	28	別館2F	6,761 (241人/日)
第4回PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ 2025	「第4回PATinKyoto京都版画トリエンナーレ」推進委員会、一般財団法人 NISSHA財団、京都市	R7.4.15～R7.5.11	26	南回廊2F	3,906 (150人/日)
松本市美術館所蔵 草間彌生 版画の世界―反復と増殖―	朝日新聞社、朝日放送テレビ、京都新聞、京都市	R7.4.25～R7.9.7	121	新館東山キューブ	163,675 (1,353人/日)
どこ見る？ どう見る？ 西洋絵画！ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 feat.国立西洋美術館	サンディエゴ美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、京都市	R7.6.25～R7.10.13	99	北回廊1F	—
Hello Kitty展-わたしが変わるとキティも変わる-	関西テレビ放送、産経新聞社、京都新聞、京都市	R7.9.25～R7.12.7	67	新館東山キューブ	—
合 計					—

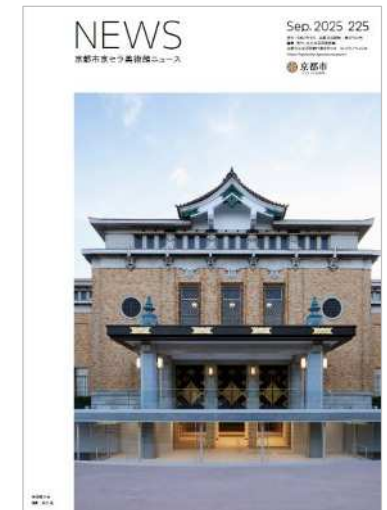
<再整備基本計画：調査研究の充実>

- ・ 京都で活動する作家や美術関係者の自主研究会等とも連携し、調査研究のネットワーク拡大と、知見の蓄積・向上を図る。

■ 美術館ニュースの発行

225号：

- ・ 「京都生活工芸館・無名舎主宰 吉田孝次郎氏インタビュー」
- ・ 中山摩衣子「ザ・トライアングル 佐俣和木：京都に眠るスポーツの地層を掘り起こす」
- ・ 森光彦「コレクションルーム秋期 特集「こどもへのまなざし」」
- ・ 新装版「作家にきく」no.10 森野泰明
(聞き手：京都市美術館学芸担当ほか) 等



■ 研究紀要の作成

■ 図録執筆

『特別展 民藝誕生100年—京都が紡いだ日常の美』

- ・ 論文：後藤結美子「「民藝」の提唱から上加茂民藝協団の結成へ—京都での民藝運動の草創期の実践」
- ・ 章解説、コラム、小解説、作家解説、作品解説執筆：後藤結美子、影山侑恵、中島基江、矢橋佳音、大熊夏実

『西洋絵画、どこから見るか？ルネサンスから印象派まで』

(当館では令和7年6月25日～10月13日開催)

- ・ 出品作家解説：一柳由樹（分担）

教育普及（ラーニング）

＜再整備基本計画：教育普及の充実＞

- ・芸術系大学や高校と連携し、ワークショップルーム等で独自の先駆的教育を体験できる場を提供。
- ・子どもや先生を対象に常設展の鑑賞講座や、ワークショップ、作家の創作過程の公開等の体験型プログラムを実施。

令和7年度実績（9月末時点）：23件（約1,190名参加）

主な取組状況（展覧会名・内容等）	回数	延べ参加者数
モネ 睡蓮のとき：講演会等（こやぎ先生が語る！「人がモネに惹かれる理由」、講演会「モネ〈睡蓮〉連作―水に宿された光―」）	2	約130人
草間彌生 版画の世界―反復と増殖―：ギャラリートーク ※英語、中国語でも開催	4	69
草間彌生 版画の世界―反復と増殖―：講演会（記念講演会「前衛芸術家・草間彌生 創作の軌跡」、特別講演：草間彌生のニューヨーク時代と近年の美術史研究）、ワークショップ（ぬり絵でなりきり！草間彌生）	3	319
コレクションルーム春期：ギャラリートーク	2	25
コレクションルーム夏期：ギャラリートーク	2	23
コレクションルーム夏期：講演会等（講演会「京都洋画の黎明期を辿る―浅井忠の京都時代を中心に―」、トークイベント「京都市美術館の現代美術―これまでとこれからと」）	2	75
どこ見る？ どう見る？ 西洋絵画！：講演会等（講演会「ルネサンスから近代まで：サンディエゴでの美術コレクション収集」、展覧会解説講座）	3	約380人
ぽよよんDAY「夏の美術館で、お話ししよう！」	1	11



<再整備基本計画：賑わい創出、MICE戦略の推進>

- ・光の広間や庭園等を国際会議のレセプション等のユニークベニユーとして積極的に活用。

昨年度に続き、中央ホール、光の広間や東エントランスロビーをレセプション等のユニークベニユーとして積極的に活用する。

内 容	期間（設営撤去期間含む）
団体懇親会	R7.4.30
Dolce5音楽企画コンサート	R7.5.17
企業周年式典	R7.6.9
IVSサイドイベント（3件）	R7.7.2、R7.7.3
INAMORI ミュージック・デイ2025 ミニコンサート	R7.8.24、R7.9.4、R7.10.12
野外映画鑑賞会「京都シネマスクエア」	R7.9.13、R7.9.14
子どもサイエンス教室	R7.9.23

Bizミュージアム〈ミュージアム×産業振興〉

昨年の「ナイトミュージアムKANSAI」に引き続き、今年は夜に限らず、さまざまな産業と美術館のコラボレーションにより新たな楽しみをお届けするイベントを開催。

acosta!@京まふ&京都市京セラ美術館（コスプレイベント）



写真提供／株式会社ハコスタ

毎年みやこめっせで開催している「京都国際マンガ・アニメフェア2025」（通称“京まふ”）と連携し館内のパブリックスペースでのコスプレイベントを開催。

開催日：9/20(土)、21(日) ※2日間で延べ約760名参加。

連続アート講座

さまざまなテーマで、ビジネスマン向けにアート講座を実施予定。

	開催予定日	講師
1	11/21(金)	藤田令伊 氏
2	12/12(金)	森光彦 氏、椎野晃史 氏
3	R8/ 1/27(火)	山下有佳子 氏

伝統産業製品ものづくり体験ワークショップ

子どもたちに人気の絵本とコラボした伝統産業のものづくりを体験できる子ども向けのワークショップを実施予定。

開催予定日：
11/23（日）



令和7年度予算概要

令和7年度予算は、歳入が、展覧会収入の減少等により前年度比で2億9,900万円の減額となった一方、歳出も、展覧会経費等の支出を抑えられたことにより前年度比で2億9,000万円の減額となり、一般財源（市税等）の負担は前年度から概ね横ばいの2億6,700万円となった。

（単位：百万円）

項目	令和6年度 当初予算	令和7年度 当初予算	差引	予算のうち主なもの
歳入	923	624	△299	コレクション展34、美術館使用料402、国補助金5、寄附金48、展覧会配当収入等74 など
歳出	1,181	891	△290	展覧会企画・施設運営等701、コレクション展48、展覧会負担金等100 など
一般財源 (税負担額)	258	267	+9	

前回の京都市美術館協議会（令和6年10月10日開催）での主な御意見と取組状況について

1 コレクションルームの認知度向上・入場者増加策について

主 な 御 意 見	取 組 状 況
<p><無料開放について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>無料のオープンデー</u>などがあればよい。 ○ <u>特別展に入れば常設展を無料</u>で入ることができるようにするなど、大規模展覧会の観覧に来た方に対して、コレクションルームへ足を運んでもらうための工夫をしてはどうか。 <p><コレクションの認知度の向上について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コレクションの<u>認知度の向上</u>が必要。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特集のビジュアルを見て入場すると、途中でそれ以外の展示もあるのでギャップを覚える。 ○ メインビジュアルにキャッチーな画像やコピーを使う、一般の方への認知度が高いタイトルにする等を行うとよい。 ○ コレクションの活用方針を定めるとよい（デジタルアーカイブ化など）。 	<p><無料開放について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コレクションルームの無料観覧日を検討中（関西文化の日：11月など）。 ○ 協賛金の獲得に努め、無料観覧日を設ける取組等の検討。 <p><コレクションの認知度の向上について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コレクションルームの広報チラシを令和6年度から新たに作成し、展示作品を紹介。また、展覧会場内の作品付近にQRコードを設置し、作品解説動画（キュレーターズトーク等）を閲覧できるようにするなど、コレクションへの理解を深めていただくための取組を実施。 ○ ラーニングにおいても、コレクションを扱った取組の充実を検討。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特集と、それ以外の季節ごとの展示から構成されているが、チラシやウェブページにおいて特集以外についても紹介することで、展覧会全体の魅力を伝えるようにする。 ○ 四季ごとの展覧会のテーマ設定や、広報のビジュアル、また展示内容等を工夫することで、コレクションの魅力が伝わりやすくなるよう工夫をしていく。 ○ まずはコレクションルームでの展示活用を行いつつ、デジタルアーカイブ化等の活用方法についても検討を行う。

2 新たな美術・美術館ファンの獲得や賑わいづくりの取組について

主 な 御 意 見	取 組 状 況
<p>＜イベントの実施について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>美術に興味のなかった人等への積極的なアプローチ</u>が必要。ナイトミュージアムで実施したビジネスパーソン向けのアート講座を拡充して実施してはどうか。 ○ 90周年イベントで実施したフードマルシェは若者も多く盛り上がっていた。このような<u>イベントを継続的に実施</u>してはどうか。 <p>＜子ども向け取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 美術館に行かないのは、小さい頃に美術館に来る習慣がなかったため。<u>小さい頃に美術館に行く機会をつくる</u>とよい（子ども向け、子連れファミリー向けの企画など）。 ○ 美術館に来ない人より、美術館に来る人（たとえば主婦層）に働きかけるほうが効果的。また、<u>小学生のうちに3回美術館に来れば、将来美術館に通うようになる</u>と言われている。<u>小中学生を招待するなどの効果的な方法を検討</u>するとよい。 ○ 海外の美術館では小学生が大きな声で話しながら鑑賞していた。小中学生が教員と一緒に来て鑑賞しながら議論するなどの場を設けると、美術館に来るハードルが下がるのでは。 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような内容の展覧会は入場者が多いかを把握し、分析することが重要。若者が飛びつくようなテーマを設定する一方で、学術的な企画も維持していくことも大切。 	<p>＜イベントの実施について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年8月に実施した「ナイトミュージアム KANSAI」では、コレクションルームの夜間開館やビジネスパーソン向けアート講座等を開催。 ○ 令和7年度も同じ枠組みでの事業を実施。岡崎地域のイベントや関係機関等との連携による各種企画を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の特別なコスプレイベント（9/20(土)、21(日)） ・ 子ども向け伝統産業品ものづくり体験ワークショップ（11月） ・ ビジネスパーソン向け連続講座の開催（11月～） ・ 野外映画鑑賞会（9/13(土)、9/14(日)） <p>＜子ども向け取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 展示室内で家族や友達同士が自由に会話しながら鑑賞を楽しむことができる日を設定。（7/27(日)） <ul style="list-style-type: none"> ・ コレクションルーム夏期関連ラーニング・プログラム「ぽよよんDAY「夏の美術館で、お話ししよう！」「じっくり見よう！いっしょに話そう！（※）」 ※予約制。学芸員のナビゲートによる対話型鑑賞。 ・ どこ見る？どう見る？西洋絵画！ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 feat. 国立西洋美術館「展示室内で自由におしゃべりしよう！」 ・ 草間彌生 版画の世界―反復と増殖―「展示室内で自由におしゃべりしよう！」 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本館や新館（東山キューブ）展示室において、アニメ展や若者をターゲットにした展覧会を含め、様々なジャンルの展覧会を組み合わせた展覧会の構成を心掛けている。

御意見を頂戴したい主な論点について

- 1 当館が取り組むべき「ラーニング（教育普及事業）」の方向性について
- 2 当館にふさわしい現代美術の展覧会ラインナップについて（主催展、共催展）